

## 市場の動向

### 【金利】

7月末に0.0%台後半だった長期金利（10年国債利回り）は、8月末には0.1%台前半まで上昇しました。長期金利は、日銀が緩和政策の長期化による副作用に配慮し、10年金利目標の変動幅の拡大を容認したことを受けて金利の先高観が高まり、一時0.1%台半ばまで上昇しました。しかし、月末にかけては海外金利の低下もあり、0.1%を挟んでもみ合いとなりました。

### 【外国為替】

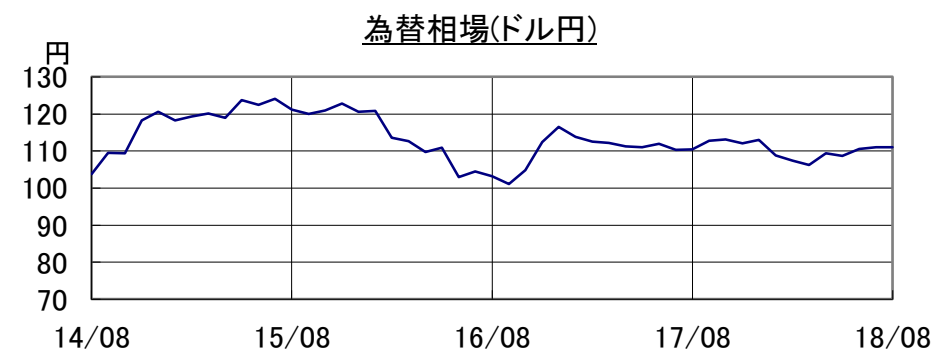
7月末に111円台前半だったドル円は、8月末も同水準となりました。ドル円は、中旬にトルコリラが急落したことをきっかけに、新興国に対する不安が広がったことから、安全資産とみなされる円が買われました。その後は、米金融当局が政策金利の継続的な引上げを示唆したことや、米国・メキシコ間での貿易交渉の進展を受けてドル高が進行しました。7月末に129円台後半だったユーロ円は、8月末も同水準となりました。ユーロ円は、トルコ向け債権を多く保有する欧州金融機関の財務悪化が懸念されたためユーロ安が進行しました。しかし、影響は軽微なものであるとの見方が広がると、月末にかけて急激に買い戻されました。

### 【日本株式】

7月末に22,553円だった日経平均は、8月末には22,865円へと1.4%の上昇となりました。日経平均は、月中旬にかけ、中国景気の悪化懸念や新興国通貨への不安から一時22,000円台を下回りました。その後は、米国株の上昇や円安ドル高進行を受けて上昇に転じ、前月末を上回って月を終えました。

### 【外国株式】

7月末から8月末にかけて、NYダウは2.2%の上昇、NASDAQは5.7%の上昇となりました。欧州市場ではFT100（英国）は4.1%下落し、DAX（ドイツ）は3.4%下落しました。米国市場は、米国と中国が互いの輸入品に対する追加関税を発表したことから企業業績への悪影響が懸念されて下落しました。しかし、好調な企業業績や米国・メキシコ間での貿易交渉の進展が好感され、NASDAQは過去最高値を更新するなど、前月末を上回って月を終えました。欧州市場は、トルコリラの急落を受けてトルコ向け債権の多い銀行株などを中心に下落しました。また、米国と欧州の自動車輸入に対する関税交渉に進展がみられないことも売り材料となりました。



## お客様にご確認いただきたい事項

### ご負担いただく費用などについてご確認ください。

- お払込みいただいた保険料のうち、その一部はご契約時およびご契約後に下記の費用等にあてられ、それらを除いた金額が特別勘定で運用されます。
  - 保険契約の締結、維持に係る費用
  - 特別勘定の運用に係る費用
  - 死亡保障などに係る費用
- ※ 控除される費用は、契約年齢・性別・保険料払込期間等により、契約ごとに異なるとともに、保険期間中変動します。そのため、費用の合計額や計算方法を表示することはできませんので、ご了承ください。
- 契約日から10年以内、かつ保険料払込期間中に解約・減額された場合、解約日の積立金額から経過年数に応じた所定の金額（解約控除）を控除した金額が解約返戻金額となります。
  - ※ 上記期間経過後は、積立金額と解約返戻金額は同額となります。
  - ※ 保険料払込方法が一時払の場合は、解約控除は発生しません。

### 運用リスクについてご確認ください。

- 変額保険は、保険金額や解約返戻金額が特別勘定資産の運用実績に基づいて増減する仕組みの生命保険です。
- 特別勘定資産は、日本の株式や公社債および外国の株式や公社債などで運用されます。そのため、株価や公社債価格の変動リスク、為替の変動リスク、信用リスクなどの運用リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる解約返戻金額が払い込まれた保険料の合計額を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。なお、各特別勘定の運用方法は、以下のとおりです。
  - 国際型 外国の株式を中心に一部日本の株式を組入れ運用します。
  - 株式型 日本の株式を中心に運用します。
  - 総合型 日本の公社債・外国の公社債を中心に、一部日本の株式および外国の株式を組入れ運用します。
- 各特別勘定への繰入割合や積立金の構成割合を変更した場合には、選択した特別勘定の種類によっては運用対象や運用リスクの種類・大きさが異なることとなりますので、ご注意ください。
- 変額保険の主契約の死亡・高度障害保険金は、契約時に定めた基本保険金額が最低保証されますが、解約返戻金は最低保証されません。